

矢野大和事務所

7-529-5306 URL <http://yano>

謹賀新年



新年のごあいさつ

謹んで新年のお喜びを申し上げます。今年は本当に穏やかな年であります。心より祈念申し上げます。さて個人事務所を作りまして今年で5年目を迎えた。今年はある意味決断と勝負の年になると思います。口演を主体とする仕事が、まさから年も続くとは思っていませんでした。当初から3ヶ月後はどうなっているか分からな

いから新しい仕事を見つけておいて下さいと言つていたくらいですか。今が勝負の年と言つたのは政治家の夢をどうするかの結論を出さなければならない事です。来年参議院選がある事は確実ですから、態度を決めなければなりません。「6年前の雪辱を」と言ってくれる方もたくさんいるのは事実ですが、これに答えを出すにはどうしても勇気がいる事です。そう遅くない今年中に答えを出します。次に口演回数が年間365回を超える事が出来るかがやはり勝負です。お陰様で過去4年間は超える事ができました。本人も驚

矢野大和新聞

友人の会3300人の会
現在150名突破



創刊号
平成24年1月1日
発行:矢野大和事務所
発行責任者:矢野大和

おおいた観光特使

皆さん、信じられない事ですが、12月15日にツーリズム大分（大分観光協会）から「おおいた観光特使」の特命を頂く事になりました。「大分県の魅力を国内外に積極的に発信してもらう」という事が目的のようです。私にとっても光栄なことだと思い、お受けいたしました。これで変な事（？）が出来なくなりました。ある意味大変ですが、頑張ってみます。ツーリズム大分

いていますが、今年も…会員の皆さん、是非力を貸して下さいませ。何よりありがたいことは、全国版CDの第2弾が今年出る事が決まった事です。自主製作を含めると4枚目のCDという事になります。どのくらい売れるかは分かりませんが、「ザ・大分県」というタイトルになりました。今年もやりたいたい事はやり、やりたくない事にも挑戦します。どうか皆さん、今年一年も宜しくお願致します。近くに私が行った時は声をかけて下さいませ。また皆さんもお近くへお越しの際は、いつでも事務所に寄って下さいネ。皆さまのご多幸を心よりお祈り申しあげます。

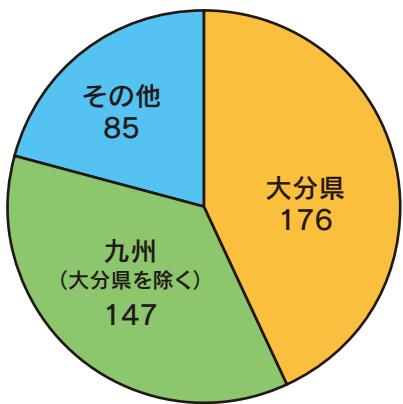


西会長より辞令を頂く

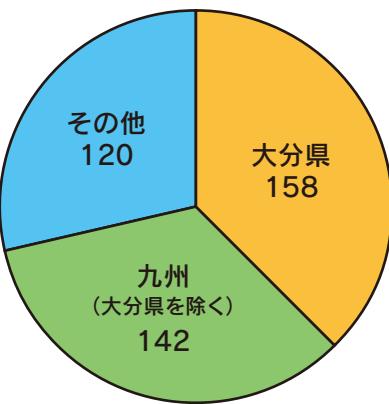
の会長さんは全国に知られる焼酎「いちこ」の「三和酒類」の会長の「西太一郎」さんで、その西さんより辞令を頂き、身の引き締まる思いです。しかも第1号というのはありがたい限りです。知事のお骨折りもあつたと聞き、名を汚さぬよう自分の口演活動が少しでも大分の宣伝になるようにがんばってみます。



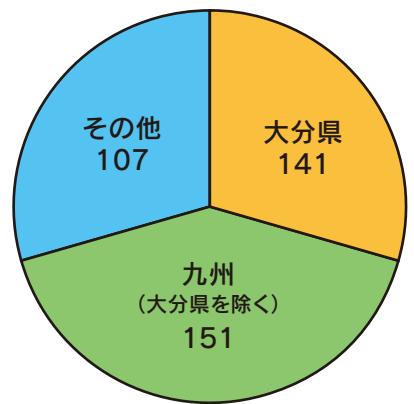
三年間を振り返って



口演数 2011年／年間408回



口演数 2010年／年間420回



口演数 2009年／年間399回

事務所を作つて早5年目を迎えました。ありがたい事にここ四年間は「年間365回の口演」をなんとかキープしていますが、今年はどうなるかわからりません。でも頑張つてやります。まず正月。トヨタ様で私の口演会が始まります。大分トヨタグループ 渡辺社長、本当にありがとうございます。ただただ感謝申し上げます。回数的にやはり大分と福岡が多い事が良く分かれるのはこのトヨタ様のお陰です。毎年1月5日の仕事初め式に私を使つて頂いて、毎年本当にスタートが切れるのはこのトヨタ様のお陰です。会なのに、時々JAグループ「家の光協会」の方々の配慮により、今まで行つた事がない所までよんでも頂けるのです。本を書かせて頂いたのにしかもよんでも頂いてただただ感謝です。大分、福岡、山口、宮崎は多分全市町村回つたと思います。北九州市、福岡市内の全区も回つてますから本当に画期的な事だと思っています。まず福岡県の方々に感謝させて下さいませ。山口県の方々のご贊同も本当にうれしいです。次に多かつたのが鹿児島県、長崎



県です。テーマは「人権」が一番多くて、PTA、子育て、健康、地域づくり、観光と続きます。どちらにしても基本は「笑つて元気」です。観光大使たつのに、タイトルに「観光」が中々現れないのも面白いですね。人権がテーマの時に私のような「笑い噺」を中心にお話るのが珍しいらしく、よく使って頂きますので感謝です。これからも少しづつ新しい噺を見つけなければなりません。九州以外でも私をお世話して頂く方も本当に多くて、いわゆる営業してくれる方が各県にいらっしゃいます。本当にありがとうございます。その方々はすべて3300人の中に入つて下さっています。みんな噺でよかつたら仲間の皆さんも何かの折に使って頂けましたら嬉しく思います。お友達価格というのがございまして、こちらも勉強させて頂いております。(笑)



マスコミに感謝

はマスコミが遠慮して取材してくれなかつた。いわゆる「色」がついた選挙に出た事なんかほとんどのは忘れていたが、マスコミの方は覚えていたのだ。だからその「色」のついた間はマスコミが遠慮して取材してくれない。それと「プロ」となつたからだと思う。お宮の宮司として生活が出来ないから、口演をさせて頂いているのが本音です。ところが昨年はいろいろなマスコミが取り上げてくれた。口演活動でだ。まず「山口新聞」「有明新報」西日本新聞」「大分合同新聞」「朝日新聞」、ありがたい限りだ。特に、長崎のNBC放送は番組まで作ってくれ

た。ただただ感謝にたえません。ラジオの「あの人、この歌、ああ人生」ではわざわざ私を長崎放送まで招いてくれて、スタジオで20分の番組収録。日々から焦つてしまつたが、このお姉さんはすごく優しくて…。助かつた。今年は「おおいた観光大使」になつた以上はマス「ミ」にも少しは出ないといけないか:「色」を取らないと出していくかもしない。



話し方教室

人前での楽しい喋り方。昨年の4月から9月にかけての第1回に引き続き昨年の11月～今年3月も大分合同新聞社の「人の心を掴む話し方教室」という文化講座を受け持つことになりました。昨年の講座はわざだタウン教室で月2回計12回講座(受講生6名)。人の前で話すことを生業としている者なのにその話法を体系的に考えた事はなく、その受講生にどうしたらうまく教える事ができるかという事を毎回考え

東京タワー イベント

昨年12月11日 東京タワーのイベント「オール大分!絆を深めよう、大分県祭in東京」で東京の空の下、初めてしゃべりました。出来は最悪でした。ただ思い出として心に残りました。このイベントは大分を東京に売り込もうと、昨年始まつたもので、私の事務所も協力ができないかとお願いにこられた土井さんという方の熱意に負けて、ボランティアで参加。なんとか私も裏方で参加させてもらいました。個人が公を動かして出来たイベントです。まさか二回目があるとは思わなかつのですが二回目があつたのです。一昨年総

る事、そのチャンスを得たということ私にとつては新鮮でした。6名の受講生は自分たちで忘年会をするまでとなり、とつても仲良かつたです。しかも3名が卒業後既に入前で口演を行いました。本当にうれしい限りです。今期もやつて下さいとお声が掛り、11月～3月までの10回、しかも今はわさだ教室に加えて大分合同新聞社本社の教室の2講座を受け持つ事になり、とても刺激のある教室となりましたお陰さまで現在受講されている方々(15名)もまじめに楽しくやつております。皆さんレベルが高くて私が教えるような事はないけど、友人ができてネットワークが広がるとても楽しい」と好評(?)のようあります。ありがとうございます。

新しい 嘶作り

1月に子どもたちに税金の話(30分)
4月に別府の一気登山の嘶(30分)
6月にザ・大分県のCDのネタ(60分)
11月に県南落語で新作落語を一席

合会として私の事務所のスタッフで私にとつては新鮮でした。6名の受講生は自分たちで忘年会をするまでとなり、とつても仲良かつたです。しかも3名が卒業後既に入前で口演を行いました。本当にうれしい限りです。今期もやつて下さいとお声が掛り、11月～3月までの10回、しかも今はわさだ教室に加えて大分合同新聞社本社の教室の2講座を受け持つ事になり、とても刺激のある教室となりましたお陰さまで現在受講されている方々(15名)もまじめに楽しくやつております。皆さんレベルが高くて私が教えるような事はないけど、友人がてきてネットワークが広がるとても楽しい」と好評(?)のようあります。ありがとうございます。

**ブログに書けない
ここだけの話**

私は子どもが二人います。長女は24歳、長男は21歳。で、どちらも東京で同じアパートに一人で住んでいます。姉の方は本当に運が良くて素晴らしい人生を送っています。そのためにまた昨年も依頼が来たのです。しかも今回は私もステージにかかるはめになつてしましました。東京の人には大分のネタが通用するのか。私の嘶はどう考えてみても室内でしか受けません。青空のもとでは到底無理。プロの芸人さんのすごさを痛感するのです。東京の方々の目線は冷たく、やはり自分の実力を棚に上げて、受けない自分を守ろうとする自分がいる。昨年を締めくくる大きなイベントだった。上司を社会人一年生から見てしまつて、婚期を逃してしまうのは確実です。また弟の方は大学3年生で、いよいよ就職活動の始まりです。私の大学時代はただひたすら落語ばかりやっていて、就職の事等全く考えていなかつたのが現実です。あの頃はなにかしら仕事はありましたよね。ところが今は違います。日本中就職難だと聞いて私も息子もあせつっています。仕事はなんでもいいと思って、やはり「やりがい」のある事が大切です。その点、娘の仕事に対する情熱は大したもので、授業料を払つても使いきる程の上司だといふ事です。さて私の家が宮司である事は裏面に書いた通りでございますが、息子にはやはりお宮を継いでもらつたのです。そのためには是非大分に帰つてきたい。その旨を息子に言つたとき、「まだ東京に居たい」と。どこの親も経験する一コマだと思う。何とその時娘のアドバイスがありました。「父さんは貴方の何倍も的人生を歩んでいます。そして貴方の歳には父さんの父さんはいなかつた。それでも今まで頑張つてやつてきた。その父さんのアドバイスが最高だと思う。」と娘が言つてくれた。そして息子は大分に帰つてもいいと思つてくれたようだ。いいアドバイスをしてくれた。娘に感謝だ。なのに娘は「当分は結婚しないでもう少し東京にいたい」とのたまつ…

鷹鳥屋神社の森

合同新聞平成23年6月1日
掲載記事より引用



写真：宮地泰彦

典型的な原風景

佐伯市宇目は山の中。「存じ」「宇目」の「唄げんか」は「山が高うち在所が見えん」と、子守娘の悲哀を歌う。高いと言つても高山というわけではないが、山々はかなり険しく懐が深い。そうした山の一つに鷹鳥屋（たかとりや、または、たかどや）山（693m）がある。山頂部に神社が鎮座し、一帯は県指定天然記念物の自然林で覆われる。神社近くまで車道が通ずる。大きな杉

の並木となつている参道をたどると、こま犬の代わりに鷹が迎えてくれる。そして山頂へ。境内林から国有林にかけ、一部にモミの林があるものの、大半はウラジロガシを含むアカガシ林で、亜高木層、低木層にイスノキ、ヤブツバキ、サカキ、ユズリハ、ハイノキなどが生い茂り、常緑樹が優先する。サザンカも自生する。ヤブコウジ、ベニシダなども見かけられよう。常緑広葉樹林は西南日本の典型的な森。いわ

ば日本列島の原風景である。民族の祖先たちは、このような森の中で長い年月を経てきた。里の鎮守の森はその名残だろうが、ここにはいまだ手付かずの森があり、「時の重み」を身をもつて受け止め、太古に戻つたと錯覚するし、人によつては神氣さえ感じられる。

神社の歴史も古い。伝説によると、昔、越中立山にいた矢野氏が紀州熊野に移つた際、筑紫（九州）へ行けとの神告を受け、建治元（1275）年、府内で大友氏に仕えた。そこで今度は豊後の南を守れとの命をもつて宇目に來た時、権現の使いとおぼしき2羽の白いタカに導かれ、この山にたどり着いたとか。今の宮司は具南落語組合や旧宇目町、佐伯市觀光大使を務めたことで知られる矢野大和氏である。

宇目を代表する祭の一つに椿原（つばきばる）祭典がある。鷹鳥屋神社が中心となり、みこしが山を発して中津留の遙拝（ようはい）所まで下り、小野市地区の郷社27社を集めて盛大な祭が開催される。

いろいろな所へ口演に行くと「本当にお宮の宮司さんですか？信じられない」とよく言われます。本當です。その証拠をお見せします。まず新聞に載つたという事です。大分合同新聞の「大分遺産」という特集記事の中に私が奉職をしてる鷹鳥屋神社の事が載りました。その記事にちゃんと私の名前が載つてますので、まず信じてくださいね。七三〇年も矢野家が社家で守つていてるものですから、父が死亡したときに長男である私がどうしても後を継がなければならなくなり、22歳で後をとらせてもらいました。それからが大変なのです。宇目町という町は人わゆる地区の氏神様があつて、宇目町の人はみな二重氏子といつて二つの神社の氏子なのです。各地区のお宮は、それぞれ地区内にあつてそれぞれが独立をしてお祭りをやつていますが、ここの鷹鳥屋神社は各地区の上にある形の鷹鳥屋神社は各地区の上にある形の神社の為に、身近な存在から少しづつ遠い存在になりつつあるのです。そこも続いた神社の境内は、自然林に囲まれて癒しのスポットとなつています。しかもパワースポットなるものになつたために、近年は若い人がお参り頂けるようになりました。ありがたい事でございます。シリーズでお宮の事書かせて頂きたいと思い、紙面を頂くようにしました。まずは新聞にどう載つたか掲載させて下さい。